

大会宣言

日本中国友好協会大阪府連合会は、7月1日、第64回大会を大阪グリーン会館において開催しました。今大会には、41名の会員がつどい、昨年の大会以降、中国への関心に応え、府民の中に日中友好をひろげるための不再戦平和、友好交流、支部での多彩な活動が報告されました。この1年間で新たに日中友好運動に加わった人たちは57名、17名の純増となり、2015年7月以降、37か月連続で新しい会員を迎え、増勢の中での開催でした。また、今大会は、核戦争が危惧された朝鮮半島情勢が南北首脳会談で急転し、さらに米朝会談によって朝鮮半島の平和体制の構築と完全な非核化で合意する状況の下での開催となりました。

対話否定・圧力一辺倒を推し進めてきた安倍政権が国際的に孤立を深めるなかで、大会は、平和的な話し合いによる解決の大切さをあらためて確認しました。

大会では報告にもとづき8人が発言し、憲法9条改悪を許さない闘いとともに、不再戦・平和活動では、「南京の記憶を今につなぐ」実行委員会活動。長谷川テル顕彰活動では、意義と7月8日スタートの「大阪・長谷川テル顕彰の会」への参加呼びかけ。堺支部が取り組む「旧日本軍毒ガス遺棄問題」の報告など。友好交流活動では、大阪総領事館の招待による、関西ブロック訪中団江蘇省訪問の旅、北東アジアの旅、中国帰国者センターなど帰国者との交流が報告されました。支部活動では、西、東大阪での「支部活動の5原則」に基づく豊かな日常活動と工夫、さらに今回は、再建なった堺支部での地域に根ざした旺盛な取り組みや、城北支部準備会からは、結成への強い思いが語られました。

再開から1年がたった女性部の活動では、女性会員ならではの視点での不再戦平和活動や交流活動など新たな進展や、今後の取り組みが報告されました。太極拳普及活動では技術向上の取り組みで府内の教室が一堂に会し活性化が図られている報告、学習活動では、中国「百科検定」を機に取り組みされた学習会・講演会や受験対策講座を通じてもっと知りたいという要求になり支部での独自学習につながっているという報告は大会参加者を大いに励ましました。一面的な中国報道が氾濫する中で、不再戦平和の誓いを基本にした草の根レベルでの交流が、信頼醸成と両国関係改善の力であることに確信を深めました。

当面の活動として、7月8日の「大阪・長谷川テル顕彰の会」結成のつどい、7月22日、中の島中央公会堂での「朝鮮半島の非核化を歓迎するつどい」、9月30日の堺支部主催の（仮称）「映像で見る日本軍が遺棄した毒ガスの現状」、12月2日の「南京の記憶をつなぐ」つどいを成功させましょう。

また、12月9日（日）の第5回「中国百科検定」、2019年3月21日（木・祝）の第6回「中国百科検定」の成功のため、「教養講座」など多面的に取り組ましましょう。

今年は日中平和友好条約締結40周年の年。今大会での成果を力にして、府民の中国への関心に応える多彩な活動、支部づくりを進め、さらに大阪では、安倍政権の「改憲」の協力者、暮らし破壊のおおさか維新政治との闘いを強める決意をあらたにしました。私たちはここに強大な大阪府連めざし奮闘することを宣言します。

2018年7月1日

日本中国友好協会大阪府連合会第64回大会